

令和2年「志公会と語る夕べ」 実施ガイドライン

(令和2年6月22日 策定 7月7日 改定)

今月10日に行われた「志公会と語る夕べ」第2回実行委員会において、当該「志公会と語る夕べ」(以下「パーティー」)につき、新型コロナウイルス感染症対策を徹底的に行った上で、予定通り来月16日にホテルニューオータニにて開催することが決定された。

については、行政が定めるイベント開催の指針順守は当然のこと、更には志公会としての独自の感染症対策も徹底的に講ずることによって、安全かつ円滑にパーティーを開催すべく実行委員会としてガイドラインの策定を行う。

< 基本事項 >

- 目 的：新型コロナウイルス感染症の影響により社会が変化中、志公会が政策集団として練り上げた「ポストコロナ・ウィズコロナの社会像」につき、来場者及びメディアに披歴する。
- 形 式：立食形式を改め、全員着席のシアター形式とする。また、来場者同士が密にならないよう十分な距離を取り椅子を配置し、来場者同士の会話の少なくなるセミナー(講演)方式とする。(※別紙、次第(案)参照)
- 講 演：麻生太郎会長による挨拶と、政策検討チーム座長である甘利明顧問が近くまとめる政策集を踏まえ、上記「目的」に沿った講演を行う。
- 会 場：当初予定していた「鶴」に加え「芙蓉」並びに「鳳凰」の3会場を設置し、それぞれにスクリーンを設置する。
- 規 模：5,000人以下、かつ収容人員の50%以下という行政の指針を順守する。具体的には使用する3会場の着席での収容人数の50%である2,957人を上限とする。上限に達した場合は入場を制限する。
- 食 事：マスクの着脱を防ぐため飲食物は一切提供しない。
- お 土 産：飲食物を提供しない代わりに、来場者にはお土産をお持ち帰りいただくことで従来形式とのギャップを埋める。また、政策検討チームがまとめた政策集も配布する。
- 開催時間：従来概ね2時間の所要時間を、感染リスク低減のため最長1時間以内に収める。
- 来 賓：従来通りご招待するが、総理のご挨拶は事前に収録したものを当日、スクリーンにて再生する。
- そ の 他：「密」を防ぐため議員等による来場者の迎賓・送賓は行わない。また、従来行っていた麻生会長との写真撮影会、またパーティー終了後の反省会も行わない。

< 感染症対策 >

- 1、 来場者にはマスク着用を原則とし、スタッフにおいては必要に応じてフェイスシールドも併せて着用する。
- 2、 開催前1週間内に発熱や咳の症状など体調に異常のあった方にはご来場をお控えいただく。また、ご来場者には当日の健康チェックを徹底していただく。
- 3、 来場時の検温（サーモグラフィー）を実施し、37.5℃以上の発熱、及び咳等の症状のある方は入場をお控えいただく。入場時の手指のアルコール消毒を徹底する。
- 4、 来場者の入退場時に「密」が発生しないよう、一定の人数で区切り、順にご案内を行う。
- 5、 開催の様様につきインターネット上での同時配信も行う。
- 6、 「密」を避けるためバスなどを使用したいいわゆる「動員」は控える。
- 7、 議員（及びスタッフ）と来場者との握手や名刺交換、大声での会話は控える。
- 8、 パーティー開催に伴う新型コロナウイルス感染者が発生した場合に備え、厚生労働省が提供する接触確認アプリ＝「COCOA」を積極的に活用する（アプリの事前のダウンロードを呼びかけ、当日会場においてもその利用徹底を促す）。
- 9、 受付時の混雑緩和のため、当日会場での会費の現金払いが少なくなるよう、事前の振り込み依頼を徹底する。
- 10、 講演等の発声者の前に飛沫拡散防止の亚克力板設置を行い、来場者との距離を十分確保する。
- 11、 ホテル内施設の感染症対策についてはホテルのガイドラインに沿うものとする。

< スタッフの対策 >

- 1、 一つの失敗が多大な社会的影響を引き起こすことを肝に銘じ、来場者にご迷惑を掛けることのないよう職務にあたる。また、この職務により議員等やスタッフが感染することのないよう対策を徹底する。
- 2、 当日の健康状態のチェックを徹底的に行い、少しでも異変があれば会場へ出入りしない。また、そうした急な欠席者も想定し余裕のある人員配置を行う。
- 3、 開催前1週間内に37.5℃以上の発熱・咳・下痢・味覚障害・嗅覚障害等の症状がある者、新型コロナウイルス感染者との濃厚接触者・同居者、身近に感染の疑われる者がいる場合、及び14日以内に海外から帰国した者とその濃厚接触者であるスタッフは当日の職務に当たらない。
- 4、 会場でのマスク着用を義務化し、手指のアルコール消毒を徹底する。また不必要な会話は慎む。
- 5、 業務に支障の無い範囲で常に一定の対人距離を保つ。

監修： 東邦大学 舘田一博 教授（日本感染症学会理事長）